



江沢民国家主席が、日中文化交流協会代表団の團伊玖磨団長(左)らと会見。会見の内容は多岐にわたり、自らピアノを弾き、横笛の名手である江主席は、「中国の大衆にも人気があるアベ・マリアという曲は、シューベルトとグノーがあるが、私はシューベルトのほうが好きです」と語った。通訳をする横川健(後左)、袁敏道(後右)両氏

——1995年9月29日 北京・中南海瀛元殿



「中国歴史博物館名品展」の
議定書調印を終えた(前列右
から)白土吾夫専務理事、張
徳勤国家文物局局長、杉田
亮毅日本経済新聞社常務。
後方左は田村祥蔵事業局長、
右は吳熙華外事処処長

——一九九五年十一月九日 東京

1995年

戦後五十年という歴史の区切りにあたる年だが、人の往來の積み重ねを基礎に、さらに深い交流への発展が、ここ数年次第に顕著になってきた。協会の團伊玖磨代表理事、白土吾夫専務理事に、中国人民対外友好協会から「人民友好使者」の称号が授与された。日本では、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件。五月に村山首相が訪中、日本の首相としてはじめ

て盧溝橋を参観。八月十五日、日本が過去の植民地支配と侵略により、アジア諸国の人々に多大な損害と苦痛を与えたとし、痛切な反省とおわびを表明(村山談話)。

●九五年の主な交流

●一月 「二十一世紀に向かう東洋美術」をテーマに北京で中日美術シンポジウムを開催(中国美術家協会、日本美術評論家連盟、日本経済新聞社、当協会の主催)、日本「美術評論家」代表団(鈴木進団長、陰里鐵郎副団長、針

生一郎、ヨシダ・ヨシエ、海上雅臣、峯村敏明、島田康寛、川口直宜、小暮貴代秘書、辻ユカリの諸氏)が参加。「日中演劇フォーラム―日中演出家会議」(日本演出家協会主催、当協会など後援)開催。中国から徐曉鐘、林兆華、王景愚、樂美勤、俞洛生らの諸氏が来日し出席。

●三月 「團伊玖磨日中友好コンサート」東京で開催。

●四月 喬石全国人民代表大會常務委員會委員長歡迎昼食會、當協會など日中友好七團體が主催、團伊玖磨代表理事が出席。「第一回國際刻字藝術展東京・95」(國際刻字連盟、日本刻字協會、毎日新聞社主催)開催、中國書法家協會刻字研究會代表團(樞希軍團長、呂如雄、張源、林建勳、張陸一の諸氏)来日、當協會協力。中國出版代表團(梁衡團長、遲乃義、陳早春、何卓新、陳滿之、許沢軍、王福珍の諸氏)来日。

中國人民對外友好協會代表團(齊懷遠團長、黃世明、王效賢、吳瑞鈞、劉子敬、袁敏道の諸氏)来日、齊懷遠氏は、同協會會長就任後初の来日。日中文化交流協會代表團(松村禎三團長、觀世喜之、藤島博文、手塚寛芳、小暮貴代秘書の諸氏)訪中。故井上靖會長の遺族一行(浦城恒雄、浦城幾世、大谷光敏、大谷亮子、黒田佳子、井上甫壬、井上弓子、井上直子の諸氏)訪中、

當協會が協力。

●五月 日本現代歌人友好訪中団(石黒清介團長、大滝貞一副團長、佐藤祥子秘書長、鈴木諄三、島崎榮一らの諸氏)一行十五名訪中。

●七月 白土吾夫専務理事が中国人民對外友好協會の招きで訪中、白土英子夫人、佐藤純子、横川健両常任理事が同行。同協會が白土専務理事に「人民友好使者」の称号を授与。金原出版(金原秀雄社長)と當協會が、中華医学會に医学學術圖書(第二十二次分)贈呈。

●八月 世界少年野球選手権大會(日本少年野球連盟主催)滋賀県湖東町で開催、四川省少年野球選手団(聶沢洪團長)来日、當協會が協力。

●九月 中國作家代表團(彭荆風團長、團員・霍達、賀鴻鈞、趙長天、李錦琦通訳の諸氏)来日。日本・現代俳句協會代表團(金子兜太團長、金子哲子、小宅容義副團長、相原左義長秘書長、佐藤祥子秘書、齋藤梅子、小長井和子らの諸氏)一行二十名訪中。第二回中國刻字藝術作品展覽祝賀日本刻字協會訪中団(渡辺寒鷗團長、初見一雄、高際翠邦、野村静谷、斎藤瑞仙、佐藤吉石、山田臥石、山本芳雅、長澤草鳩らの諸氏)一行十五名訪中。日本「第十二回中國書道研究會」訪中団(鈴木桐華團長、大野篁軒副團長、林薫園秘書長)一行二十五名訪中。日中文化交流協會代表團(團伊玖磨團長、團和子、松尾敏男、坂野上明、大庭みな子、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中、江沢民国家主席と会見、中國人民對外友好協會が

齊懷遠対外友協会長(右)から人民友好使者章を贈られる團伊玖磨代表理事(中)。齊会長は、授与式で「團伊玖磨先生が正しい歴史観の上に立ち、長年にわたり、音楽など文化の交流を通じて日中友好促進のため、貢献されたことに敬意を表します」と述べた。團和子夫人と

——一九九五年九月十七日 北京・釣魚台国賓館



齊懷遠中国人民対外友好協会会長(右)から「人民友好使者」の称号を贈られる白土吾夫専務理事。国交正常化前の困難な時代から日中友好のため献身し多大な貢献をしたことに對し贈られたもの

——一九九五年七月十七日
北京・釣魚台国賓館

齊懷遠会長(中)はじめ中国人民対外友好協会代表団一行は、阿部廣次常任理事(左三)の案内で、一九九四年に逝去した千田是也代表理事の墓前に献花した。岩崎加根子(左四)、川口浩三(右)ら諸氏と

——一九九五年四月十八日 東京・染井墓地



朱家角の古い町並みを散策する協会代表団の松村禎三団長(後左)と手塚寛芳氏(前左)。遅志剛上海文連副秘書長(後右)と

——一九九五年五月一日 上海



團伊玖磨代表理事に「人民友好使者」の称号を授与。
◎10月 日本文化界囲碁訪中団(江崎誠致団長、那珂太郎、浅野利昭、前野昭吉、前野馥、伊藤礼、村上昭春、村上紀子、斎藤宜郎、笠原淳、長野和枝、白川正芳、入村泰山、大門武二、大島政文、中丸美繪、中野暁らの諸氏)一行二十名訪中。
◎11月 作家の津本陽氏が訪中、当協会協力。「中国映画祭'95」開催、当協会など後援。日本演劇家訪中団(内山鶴団長、水谷内助義副団長、原信之秘

書長、畑野一恵、西川信廣、観世葉子の諸氏)訪中。
◎12月 九月の第四回国連世界女性会議北京開催を記念し、「第三回日中婦人書道交流展」を北京で開催、開幕に日本書道院訪中団(田中凍雲名誉団長、田中竹園団長、團和子名誉顧問、依田祥堂、佐藤純子、中村雲龍各顧問、高橋静豪秘書長、中野暁副秘書長、笹生秋琴、小暮貴代両秘書、嶋溪翠、塚越初光、本堂歌苑、山田白苑、小澤白香、大戸正光、曾田郁苑、野村瑛苑、福島聴琴、藤原香苑、神作花紅、大澤京華らの諸氏)一行五十四名が訪中。

文化交流の範囲は非常に広い。なかでも、出版・印刷の分野は、文化の創造、記録、普及、伝播を担う要の位置にある。協会にとっても重要な分野であり、一九六四年以来、隔年に互いの国を訪れる代表団の往來を核に、交流が定着している。出版事業が依ってたつ広範な文化的バックグラウンドを、風土を含めて両国の出版・印刷界の人たちが、互いに肌で知ることには意義深い。一方、自社の全出版物を長年、中国の関係方面に贈り続けている出版社がある。岩波書店は四十七年から中国国家図書館や北京大学図書館などへ寄贈、そして医学書専門の金原出版は七三年から中華医学学会などへ、この年第二十二次の寄贈となった。交流による相互の信頼は、目に見えるものでもなく、一朝一夕に築かれるものでもない。

(九十九)



（上）陝西歴史博物館を訪れ、方鄂秦副館長（右一）の歓迎を受ける協会代表団の高山辰雄団長（右二）、大岡信（左二）、山本亘（左一）の諸氏

——一九九六年四月三日 西安



（上）第3回日中婦人書道交流展が開幕 開幕式でテープカットする（右より）吉永小百合、田中竹園、團和子、土井たか子、葛綺雲中国婦人書法家代表団団長、三木睦子の諸氏。同展には特別出品として各界で活躍する女性の作品が展覧された

——一九九六年十一月十二日 東京セントラル美術館



日本印刷訪中団が訪中、印刷関係者との座談会でマルチメディア社会に対応する日本印刷界の現状を紹介する鈴木和夫名誉団長（左二）。（右から）柴山久慶、北原敏郎、王志高中国印刷技術協会常務副理事長、武文祥中国印刷公司社長（左一）の諸氏

——一九九六年十月八日 北京

北京で「第一回中日俳句・漢俳交流会」に出席。日中文化交流協会代表団（永上勉団長、森塚敏副団長、植田いつ子、青木鈴慕、佐々木愛、横川健の諸氏）訪中。北海道文化界訪中団（坂野上明団長、森本正夫副団長、東功秘書長、佐藤純子総務、佐藤満、中川利若、小川東洲、荒巻義雄、村田文男、野島和夫、荒光男、西野鷹志、赤塚知以、今井宏、橋詰祐一の諸氏）訪中。金原出版（金原秀雄社長）と当協会が中華医学学会に医学術図書（第二十三次分）を贈呈。中国書法家代表団（王学仲団長、張虎副団長、朱關、王鏞、朱根全通訳の諸氏）来日。

◎10月 日本作家訪中団（三浦哲郎団長、秋山駿、高橋昌男、増田みず子、横川健の諸氏）訪中。日本出版訪中団（鈴木和夫名誉団長・トッパン・グループ総研会長、杉浦博団長・トッパン・グループ総研社長、北原敏郎上二ビジネスフォーラム社長、中田久士成旺印刷社長、長島雅之瀬味証券印刷副社長、柴山久慶東洋インキ製造常務、赤塚元トッパン・グループ総研企画調査部長、佐藤祥子秘書の諸氏）訪中。日本文化界団基訪中団（江崎誠致団長、孔祥明顧問、那珂太郎、浅野利昭、伊藤礼、伊藤啓子、伊藤礼子、村上昭春、村上紀子、斎藤宜郎、榎原清夫、榎原章子、笠原淳、長野和枝、入村泰山、大門武二、大島正雄、中野暁、小阪裕二らの諸氏）訪中。第二回日本・歌人友好訪中団（近藤芳美団長、近藤とし子、佐藤祥子秘書長、細田悦子、影山公子、

野澤雅美、木塚夏子らの諸氏）訪中。◎11月 「第三回日中婦人書道交流展」開幕。同展開幕式に中国婦人書法家代表団（佟韋、歐陽中石兩顧問、葛綺雲団長）と中国婦人書法家訪日団（白照顧問兼団長）一行二十名が来日。中国演劇家代表団（李默然団長、馬威、頌揚、余雍和、周紅、龍潮、李華藝の諸氏）来日。成田空港到着時に頌揚氏が急逝、翌日、馬威氏及び当協会の横川健氏が御遺体を北京へ送る。◎12月 海南省海口市で「日中刻字芸術名家作品展」（主催：中国書法家協会など）開催。日本刻字協会訪中団（渡辺寒鷗顧問、斎藤瑞仙団長）一行二十五名訪中。

創立四十周年を迎えた。協会がここまで歩んで来られたのは、ひとえに多くの人々の支持があつてのことである。それは有名無名の、内外の、一時的、継続的、政治的、経済的、精神的、積極的、消極的等々の多様な、中には私たちが全く気付かない支持さえあつたに違いない。改めて感謝の念が湧く。協会は純然たる民間団体だが、徒らに「官」と対立するものではない。交流史上、大きな役割を果たした遺唐使は純然たる「官」である。それもおおよそ二十一年に一度の派遣だった。しかし、奈良時代にも協会のような役割を担った多くの人々がいたことは確かである。そして、それらの人々はすべて、史上無名である。

（九十九）



当協会の会長に團伊玖磨代表理事(左二)が就任 常任理事会の席上で会長就任を祝賀する高山辰雄(右一)、水上勉(右二)両代表理事、白土吾夫専務理事(左一) —1997年6月11日 東京

日中国交正常化25周年祝賀会に出席するために北京を訪れた水上勉代表理事(左)は、江沢民国家主席と会見、固い握手を交わした。これが水上勉氏の最後の訪中となった —1997年九月三十日 中南海瀛台瀾元殿



白土吾夫氏と日中文化交流協会が「井上靖文化賞」を受賞 井上ふみ井上靖記念文化財団理事長(右)から賞状を受ける白土吾夫専務理事(左)。高山辰雄代表理事と —1997年一月十一日 東京



1997年

国交正常化二十五周年記念行事も多く、橋本首相の訪中、李鵬総理の来日など日中関係は良好だった。井上靖記念文化財団から「白土吾夫氏と日本中国文化交流協会」が井上靖文化賞を受賞。白土氏(専務理事)が創立以来四十年間、一貫して日中文化交流発展のために活動してきたこと、協会が正常な国交のない激動の時期に発足し、文化交流と友好の増進に大きな貢献をしてきたことに対して贈られたものである。六月、團伊玖磨氏

が会長に就任。團会長は十月、中国文化省から「文化交流貢献賞」を受賞した。中国では最高実力者鄧小平氏が二月に逝去、七月に香港が中国に復帰。〈九七年の主な交流〉
 ◎1月 「白土吾夫氏と日本中国文化交流協会」が第四回井上靖文化賞受賞。
 ◎2月 鄧小平氏逝去。
 ◎3月 雲南省舞踏家協会第六次訪日代表团(劉金吾団長、張重錦秘書長、和文貞、和明、殷宏光、袁蓉、楊文苑、黃自新の諸氏)来日、当協会が協力。全日本書道連盟「第十四回中国書道研究会」訪中団(竹田悦堂団長)一行二

十七名訪中。
 ◎4月 杉村春子代表理事逝去。日中文化交流協会代表团(松尾敏男団長、山崎賢二、秦恒平、山本昌代、千住真理子、小暮貴代の諸氏)訪中。邦楽家友好交流訪中団(青木鈴慕団長、鳥居名美野副団長、中井猛総務、横川健秘書長、西村鈴宏、佐藤岡豊、佐野奈三江らの諸氏)訪中。万の会(野村万蔵、野村登美子、野村万之丞、野村良介、野村晶人、長尾莊一郎、原信之らの諸氏)訪中。日本書道界「書愛好者訪中団(浅見寛洞団長、浅見栄子、村貫方南、高際翠邦、中野曉、浅見久恵の諸氏)訪中。
 ◎5月 日本文化界訪中団(高山辰雄団長、矢代静一、矢代和子、金山茂人、山本亘、小川貞夫、手塚寛芳、藤島大千、小暮貴代の諸氏)訪中。日本「山東省曲芸鑑賞」訪中団(永井啓夫顧問、永井富子、清水一朗団長、中野曉秘書長、遠藤佳三、中嶋典夫、三橋貞子、稲田和浩の諸氏)訪中。
 ◎6月 中国文化省代表团(孫維学団長、張愛平、孫曉紅、朱英傑、陳靜の諸氏)来日。日本演劇家訪中団(松下砂稚子団長、岩浅豊明、佐々木梅治、山本

道子、松村隆敏、原信之の諸氏)訪中。團伊玖磨氏が当協会の会長に就任。日中文化交流協会代表团(團伊玖磨団長、團和子、野村浩一、樽松三郎、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中。
 ◎7月 香港が中国に復帰、北京での祝賀会に團伊玖磨団長ら当協会代表团が出席。詩人の林林氏来日、北上市の日本現代詩歌文学館で講演、林懷東、関立形兩氏同行、当協会が協力。中国出版代表团(沈仁干団長、蔣正萌、張志欣、聶震寧、龔莉、張曉虎、王福珍の諸氏)来日。
 ◎8月 「経営法曹会議」訪中団(森田武男団長、石寄信憲副団長、木村美智子秘書長、齊藤健、齊藤純子、成富安信、中村三次、中村曜子、小倉隆志、小倉明江、前田進、門間進、加藤公敏、小林浩平、佐藤博史、黒田京子、山田靖典、山下泰重、為近百合俊の諸氏)訪中。日本少年野球選手団(相川弘団長)訪中、当協会が協力。金原出版(金原秀雄社長)と当協会が中華医学学会に医学書術図書を贈呈(第二十四次)。
 ◎9月 中国外文出版發行事業局訪日団(趙常謙団長、沈錫飛副団長、元文公、劉東、于明新の諸氏)来日、当協会が協力。東京で孫平化氏追悼会。中国吟遊の旅訪中団(齋藤梅子団長、船越淑子副団長、佐藤祥子秘書長、前田好子、今田守昭らの諸氏)訪中。日本「中国古史」研究者友好訪中団(岩見宏顧問、岩見節子、杉本憲司団長、杉本留子、江村治樹、原信之らの諸氏)訪中。日本書道院「望月望郷詩碑」参

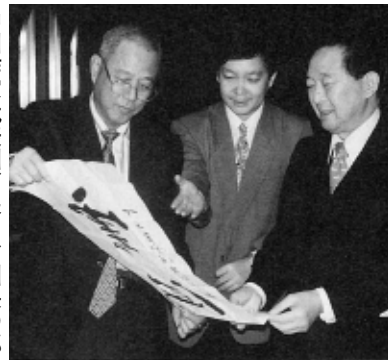


中国の著名な音楽家の劉詩嶸(右一)、鄭小瑛(左三)、王耀華(左一)の諸氏が来日、團伊玖磨会長(右三)作曲の新作オペラ「建・TAKERU」公演を鑑賞した。朱踐耳上海市文連団団長(左二)、小林武史氏(右二)と

——1997年10月12日 東京・新国立劇場

中国作家代表团が来日、団長の鄧友梅氏(左)は、辻井喬氏(右)と交流を深め、記念の書を贈った。李錦琦氏と

——一九九七年十一月十四日 東京



上海市文連代表团が来日、作家の陳舜臣氏(右二)は一行を歓迎し、団長の朱踐耳主席(左二)に自著「阿片戦争」を贈った。蔡錦墩夫人(右二)、上海市文連の陸麗珍氏(左二)と

——一九九七年十月十日 神戸



日本演劇家訪中団の歓迎夕食会で中国戯協の劉厚生(右)、趙尋(左)両副主席らを前に故杉村春子氏の遺志を継いで交流の発展に尽くしたい、と述べる松下砂稚子団長

——1997年6月15日 北京

観団(田中凍雲顧問、田中竹園、根岸鷺山団長、中野暁秘書長、土井晶苑、大戸清吟、大戸正光、飯野竹徑、斎藤松鶴、廣瀬貞翠、野中紅葉、茂木鷺芳、武蔵江鷺、鶴崎尚義、鶴崎秀子の諸氏)訪中。北京での日中国交正常化二十五周年記念祝賀会に水上勉代表理事、佐藤純子常務理事が出席、角理羽子氏が同行。

◎10月 上海市文学芸術界連合会代表团(朱踐耳団長、褚水敖団長補佐、張森、陸海明、杜力寧、陸麗珍の諸氏)来日。中国の音楽家、劉詩嶸、鄭小瑛、王耀華の諸氏来日。李鵬総理歓迎レセプション、当協会など日中友好七団体主催。中国人民対外友好協会代表团(陳永昌団長、蘇民、徐錫宜、鄭京湘、劉子敬、董振華の諸氏)来日。日本文化界団基訪中団(江崎誠致団長、那珂太郎、浅野利昭、前野昭吉、村上昭春、村上紀子、斎藤宜郎、榊原清夫、榊原章子、笠原淳、長野和枝、入村泰山、大門武二、大島政文、中野暁らの諸氏)訪中。日本文学界友好訪中団(松尾敏男団長、松尾愛、那波多目功一、那波多目竹子、酒井勝彦、清水達三、清水祐代、袴田規誓計、西田俊英、小暮貴代の諸氏)訪中。中国書法家協会刻字代表团(唐雲來団長、吳東民、張之河の諸氏)当協会、日本刻字協会の招きで来日、第二回国際刻字芸術展開幕式、刻字国際会議に出席。日本「瑠峰岳風会」吟道友好訪中団(福田瑠岳団長、福田輝岳、久野正憲両副団長、原信之秘書長、加藤田江子秘書、瀬畑八

恵子、大津敦子両副秘書)一行三十四名訪中。

◎11月 現代俳句協会代表团(小宅容義団長、牧石剛明副団長、佐藤祥子秘書長、瀬戸美代子副秘書長)一行十八名訪中。中国作家代表团(鄧友梅団長、曾鎮南、何申、格非、李錦琦の諸氏)来日。中国映画祭、97開幕、当協会が後援。團伊玖磨会長が中華人民共和國文化部の「文化交流貢献賞」を受賞。

◎12月 中国映画「阿片戦争」(謝晋監督)公開、当協会が協力。

国交正常化二十五周年、北京での盛大な記念祝賀行事に水上勉代表理事(後に最高顧問)が協会の代表として出席した。最後の訪中だった。氏と中国との関わりは長く、広く、そして深い。協会の創立当初から多くの中国作家と親交を結んだ文学交流、自作の戯曲による演劇交流、禅の祖の足跡を求めた心の旅の交流、翻訳された数々の作品を通じた水上文学のファンも多かった。いずれも氏と協会と中国とを結ぶ太い絆だった。中国に、そして何よりもそこに生きている人々に寄せる氏の深い愛情が「天安門事件」に遭遇したショックの大きさとそれを克服した度量に表れていた。協会の存在を支える、それもいざというときの、心の依り所のような希有な役割を果たされたと、しみじみ思うのである。

(九十九)

1998年

平和友好条約締結二十周年の年。協会は團伊玖磨会長のもとで新しい年を迎え、交流を一層活発に展開した。團会長は国際交流基金の「国際交流基金賞」を受賞、長年に

わたって日中文化交流事業に尽力していることも授賞理由であり、八五年に協会が受賞した同基金の「奨励賞」に続く、嬉しいことだった。政界は、橋本首相辞任、小淵内閣成立。日共・中共が三十二年ぶりに関係を修復。江沢民主席が国賓として来日、両国政府は「平

和と発展のための友好協力パートナーシップの構築に関する日中共同宣言」を発表。中国では六月以来の豪雨により、長江一帯など各地で洪水が発生、被害甚大。協会は中国政府の呼びかけに応え、救援金の寄託を受け付けた。

〇九八年の主な交流

◎2月 「中国曲芸鑑賞」訪中国（永井啓夫顧問、永井富子、中嶋典夫団長、中野暁秘書長、三橋貞子、稲田和浩の諸氏）訪中。

◎3月 日本「中国伝統音楽鑑賞」訪中国（吉川英史団長、吉川節子、中野

暁秘書長、永井啓夫、永井富子、西潟美溪、中島靖子、服部幸子、吉川周平、城所恵子、入江宣子、岡村美佐子、齋藤真希子秘書らの諸氏）訪中。雲南省舞踊家協会代表団（楊利先団長）来日、黛民族舞踊文化財団代表団（大野晃団長）訪中、いずれも当協会が協力。現代歌人協会代表団（篠弘団長、高瀬一志、大滝貞一両副団長、奥村晃作総務、佐藤祥子秘書長、久泉迪雄、村山美恵子らの諸氏）一行二十名訪中、北京で「日中短歌シンポジウム」に参加。

◎4月 日本学術出版訪中（田所竹彦団長、土井庄一郎、荻澤美佐子、濱田隆、児玉浩憲、佐藤克身、加藤二郎、景慧、柄木田康之、森明子、佐藤祥子

秘書の諸氏）訪中。胡錦涛国家副主席来日、当協会など日中友好七団体が歓迎レセプション。日本書道界囲碁愛好者訪中（田中凍雲顧問、大井錦亭団長、高際翠邦、村貫方南、南八郎、山田臥石、中野暁の諸氏）訪中。

◎5月 「道元」の足跡を訪ねる友好訪中（倉橋羊村団長、倉橋幸子、佐藤祥子秘書長）一行二十一名訪中。中国古典月季愛好者」訪中（宇野昌彦団長、小阪裕二秘書）訪中。日本作家訪中（加藤周一団長、矢島翠、春名徹、水村美苗、横川健の諸氏）訪中。

◎6月 日中文化交流協会代表団（團伊玖磨団長、團和子、大城立裕、大塚信一、絹谷幸一、佐藤純子、横川健の諸氏）訪中。李嵐清副総理と会見。写真家の稲越功一氏訪中、当協会が協力。俳誌「虎杖」創刊五十周年記念日中文化交流訪中（相原左義長団長、相原澄江、玉乃井明総務、佐藤祥子秘書長、加地桂策、大川末廣、藤田勇らの諸氏）一行二十三名訪中。日本・墨技会訪中（関根薫園団長、納谷古石副団長、中野暁秘書長、池田桃園団長秘書）一行二十九名訪中。日本作家「東北の旅」訪中（高井有一団長、中村輝子、秋山駿、高橋昌男、高橋哲子、笠原淳、長野和枝、立松和平、横松美千絵、佐藤洋二郎、久間十義、横川健の諸氏）訪中。

◎7月 岩波映画と当協会の企画制作による長江・三峡ダムの記録映画第一部「長江悠々」完成。

◎8月 日本少年野球選手団（浜口喜



皇太子殿下ご夫妻が「大黄河文明展」を鑑賞。お出迎えする團伊玖磨会長（左一）ら

——一九九八年十一月十七日 江戸東京博物館



音楽、文学が趣味という陳健中国大使（中央）が團伊玖磨会長（右一）を自宅に訪ね、和子夫人手ずからの料理を賞味し、歓談尽きないひととき。同行の耿墨学参事官（左一）、熊波氏（右二）と

——一九九八年十一月十六日 横須賀



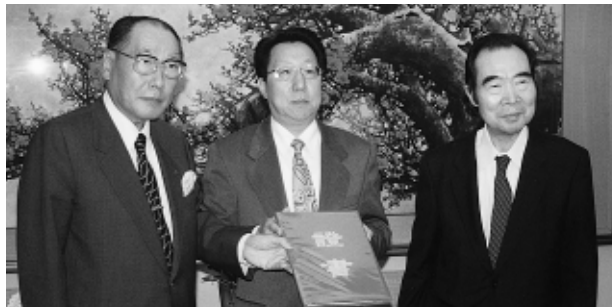
平和友好条約締結二十周年記念、対外友協、文連両代表団歓迎レセプションで、文連代表団のチベット族作家・塔熱次仁玉珍氏（中央）を囲み、（左へ）黒井千次代表理事、安奈淳、尾崎秀樹代表理事、（右へ）土井たか子、五島昌子、山本良子の諸氏

——1998年10月27日 東京



著名な作家、王蒙氏(右・元文化相)を自宅に訪ね、中庭で歓迎を受ける日本作家訪中団の加藤周一団長(左)、春名徹(中後)、水村美苗(中前)ら諸氏

—1998年5月26日 北京



中国大使館を訪れ、協会に寄託された北海道新聞社など三社からの中国水害救援金を手渡した後、陳健大使(中)から証書を受け取る坂野上明社長(左)、白土吾夫専務理事

—1998年10月6日 東京

良団長)訪中、当協会が協力。日本経済界訪中団(鶴田卓彦団長・日本経済新聞社長、藤井義弘日立造船会長、橋本伸一安川電機社長、林宏三三菱信託銀行会長、櫻井孝頼第一生命保険会長、鈴木政志野村證券常任顧問、大野剛義さくら総研社長、坊上卓郎日本ビクター顧問、角谷正彦中小企業金融公庫総裁、関谷徳衛万葉洞社長、木村知躬アサガミ社長、大竹美喜アメリカンファミリー生保会長、中島宏・陶芸家、後藤克彦日経リサーチ副社長、長谷川智恵子日動画廊副社長、河野栄子リクルート社長、三森和彦・日経新聞、中本幸伸・日立造船、陳俊明・野村證券、井戸田卓・第一生命、木村美智子秘書長、齋藤真希子秘書の諸氏)訪中。

◎9月 中国の大規模な水害に対し、当協会は中国政府の国際的支援要請に応じて救援金をよびかけ。現代日本歌人友好訪中団(水野昌雄団長、佐藤祥子秘書長、荻部雪江、寺島萬里子、寺島清文、大野静子、大畑恵子、日野さく、赤司喜美子、小木宏らの諸氏)訪中。

日中文化交流協会代表団(黒井千次団長、横川健秘書長、清水邦夫、大津英敏、和太守卑良、安奈淳の諸氏)訪中。日本出版界訪中団(中村義治団長・教文館社長、鈴木信夫丸善社長、篠崎孝子有隣堂社長、亀井忠雄三省堂書店社長、早嶋茂旭屋書店社長、矢内廣びあ社長、

佐藤祥子秘書の諸氏)訪中。「大黄河文明展」が江戸東京博物館で開幕、日本経済新聞社、当協会などが主催、開幕式に河南省代表団(陳全国団長、孫泉陽副団長、方洪連秘書長、常儉傳、郭引強、牛寧、何琳の諸氏)来日。同展は福岡、京都でも開催。金原出版(金原秀雄社長)と当協会が中華医学学会に医学術図書を贈呈(第二十五次)。

◎10月 「日中平和友好条約締結20周年記念祝賀会」北京で開催、野村浩一代表理事が出席、江沢民主席と会見。日本文化界訪中団(江崎誠致団長、前野昭吉、村上昭春、村上紀子、斎藤宜郎、榊原清夫、榊原章子、山田史生、入村泰山、大門武二、大島政文、小阪裕二らの諸氏)訪中。團伊玖磨会長が「国際交流基金賞」受賞。当協会が寄託をうけた北海道新聞社など三社の中国水害救援金を坂野上明社長、白土吾夫専務理事が陳健大使に手渡す。白土専務理事はさらに第一・二回分の救援金を名簿とともに陳健大使に手渡す。東京で「シルクロードの煌めき」中国・美の至宝」展(北海道新聞社、当協会等が主催、議定書調印のため国家文物局訪日団(張文彬団長、孔祥星、劉曙光、王立梅、張忠志通訳の諸氏)来日。中国人民対外友好協会代表団(舒乙団長、李鉄民、傅家宝、馬俊軍、劉子敬秘書長、董振華秘書の諸氏)来日。中国文学芸術界連合会代表団(周巍峙団長、王昆、黃愛萍秘書長、塔熱次仁玉珍、趙平、唐曉剛の諸氏)来日。

◎11月 「第三回国際刻字芸術展」、温州市で開催、日本刻字協会訪中団(渡辺寒鷗、初見一雄両顧問、高際翠邦団長、薄田東仙、堀玄伸両副団長、齊藤瑞仙秘書長、中野晩参子、酒井恒仙、村上圭仙、網代澄亭、斎藤青島、秋山青桃らの諸氏)一行三十三名訪中。中国演劇家代表団(廖奔団長、鮑黔明、李華藝の諸氏)来日。当協会など日中友好七団体主催で江沢民主席歓迎レセプション。中国水害の第三回救援金を佐藤純子専務理事が中国大使館の耿墨学参事官に手渡す。

◎12月 日本音楽家訪中団(廣瀬量平団長、中博昭、山本邦山、常森寿子、原信之秘書の諸氏)訪中。

理想と利益、たとえば、イデオロギー外交と国益外交、これが調和がとれて推進されることが最も望ましい。団体の在り方も同じである。団体の性質によって、共同社会的性質の強い結合と利益社会的性質の強い結合とに分けることができる。協会は、その発生と発展の過程において、共同社会的性質の濃い、言わば、一つの理想に向かって邁進する団体であったし、現在もそうである。九一年に続くこの年にも、中国は建国以来最悪とみられる水害に見舞われた。協会も再度、救援金の寄託を受け付けたが、全く名利を求めず送金して下さったかたがたには、頭を下げるばかりではない。理想主義の真骨頂を見る思いがする。

1999年

中国が建国五十周年を迎え、祝賀行事には團会長ら当協会代表団が招かれて出席した。八月に小淵首相訪中。年末にマカオが中国に復帰、アジアにおけるヨーロッパ植民地主義の完全消滅という歴史的快挙であり、現地での政権移行式典に日本の民間人として唯一人、團会長が招かれて出席した。團会長はこの年「文化功労者」に決まった。国内では国旗・国歌法成立。NATO軍機による在ユーゴ中国大使館「誤爆」もこの年。



協会と外務省の共同招請で来日した孫家正文化相(左)を歓迎し、建国五十周年に祝意を述べる團伊玖磨会長(中)、白土吾夫代表理事

——一九九九年五月十四日 東京

〇九九年の主な交流

◎1月 木村美智子常任理事、中国水害の救援金(第四回分)を中国大使館に名簿とともに届ける。

◎2月 日本「馬街書会」鑑賞訪中団(吉川周平団長、中野暁秘書長、西潟美溪、城所恵子、岡村美紗子、荻原達子の諸氏)訪中。

◎4月 日本書道界囲碁愛好者訪中団(大井錦亭団長、村貴方南副団長、高際翠邦、友井幸雄、千葉軒岳、南八郎、中野暁の諸氏)訪中。日本現代詩人友好訪中団(原子朗団長、財部鳥子副団長、佐藤祥子秘書長、難波律郎、難波晋子、八木忠栄、守屋佳子らの諸氏)



青年時代に日本に留学し、築地小劇場を知る劇作家杜宣氏(左二)の歓迎を受け、再会を喜ぶ協会代表団の團伊玖磨団長(左一)、杉本苑子(中)、前田常作(右二)、上條恒彦(右一)の諸氏

——一九九九年五月二十七日 上海

訪中。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団

(永井啓夫顧問、永井富子、遠藤佳三団長、中野暁秘書長、入江宣子、三橋貞子の諸氏)訪中。日本邦楽家友好交流訪中団(青木鈴慕団長、鳥居名美野副団長、西村鈴宏、杵屋勝真代、佐藤岡

豊、山崎和男、佐野奈三、梅若清瑛らの諸氏)訪中。「シルクロードの煌めき—中国・美の至宝—」展札幌展(北海道新聞社、当協会、中国歴史博物館など主催)開幕、開幕式に中国代表団(初

世賓団長、江友京、黄燕生、趙申祥、丁衛民、張忠志の諸氏)来日。同展はさらに千葉、奈良、岡崎でも開催。同

展開催記念「シルクロードコンサート」を札幌で開催、指揮・團伊玖磨氏、十

束尚宏氏、井上靖氏「シルクロード詩集」の朗読・栗原小巻氏、主催が当協会、北海道新聞社、民音。

◎5月 日本文化の源流を訪ねる—シルクロードの旅俳人友好訪中団(倉橋羊村団長、倉橋幸子、佐藤祥子秘書長)一行二十二名訪中。

東山魁夷顧問逝去。

孫家正文化相一行(孫家正文化相、

張文彬、尹志良、李剛、張建康、張愛

平、陳諍の諸氏)来日。日中文化交流

協会代表団(團伊玖磨団長、杉本苑子、

前田常作、上條恒彦、佐藤純子、齋藤

真希子の諸氏)訪中。辻井喬顧問、酒

井信義氏ら取材のため訪中、当協会が

協力。日本印刷界友好訪中団(杉浦博

団長・トッパン・グループ総研常勤顧

問、永井直保副団長・永井印刷工業社

長、永井和子、北原敏郎・上二ビジネ

ス・フォーム社長、北原直子、加藤昭、

建築知識会長、加藤文枝、原正・富士

薬品工業会長、森内康雄・コミュニビ

ジネス社長、森内貞子、秋元裕・富士

印刷社長、秋元玲子、佐藤祥子秘書の

諸氏)訪中。

◎6月 雲南省舞踏家協会代表団(王惠芬団長)来日、漢民族舞踊文化財団の招き、当協会が協力。

◎7月 「中国二十世紀書法大展」東京で開幕、当協会、毎日新聞社、毎日書道会、中国書法家協会主催、中国書法家協会代表団(王学仲団長、張伝凱副団長、白煦秘書長、韓天衡、吳震啓、

嚴峻の諸氏)来日。宋健中日友協会長歓迎レセプション開催、当協会など日中友好七団体が主催。漢民族舞踊文化財団訪中団(大野晃団長)訪中、当協会が協力。中国音楽家代表団(嚴良堃団長、趙宝智副団長、王樹仁、宋一、

龔耀年の諸氏)来日。

◎8月 大阪での世界少年野球選手権大会(日本少年野球連盟主催)に中国選手団(武開文団長)が参加、当協会が協力。「大井錦亭五十年書法展」北京で開催、開幕式出席代表団(大井錦亭団長、田宮文平、中安宏規両客員、中野暁顧問、島宮暁秀、本波棲亭両副団

長、北村象亭、磯辺哲舟両秘書長)一行五十名訪中。日本歌人友好訪中団(近藤芳美団長、近藤とし子、佐藤祥子秘書長、宮崎静夫、影山公子、野澤雅美、中村陽子、坂昌子、多田俊子、木

塚夏子、岩崎嘉壽子らの諸氏)訪中。

◎9月 文物愛好家訪中団(團伊玖磨



中国文化省の招きで訪中、建国五十周年の式典に参列した協会代表団の(右から)黒井千次代表理事、坂野上明顧問、佐藤純子常務理事、熊井啓常任理事の諸氏

——1999年10月1日 天安門



出版・印刷界の相互往来は長い歴史を持つ。来日した中国出版代表団の于永湛団長(左・国家新聞出版署副署長)を歓迎する辻井喬顧問、後方は鄭全来氏

——1999年12月7日 東京

団長、北山喜立副団長、木村美智子秘書長、瀧澤政治、東森俊之、小山直志、日下千恵子、井上繁雄、清水俊一、竹田博志、安斎直彦の諸氏) 訪中。

尾崎秀樹代表理事逝去。
日中文化交流協会代表団(鈴木和夫団長、田沼武能、三浦久司、太田徹也、



中国東北の日中近・現代史ゆかりの地を訪ねた日本歌人友好訪中団。瀋陽郊外柳条湖に建てられた「九・一八歴史記念碑」の前で、近藤芳美団長(後列左五)ら一行——一九九九年九月四日



日本青年文化交流訪中団の団長として訪中、上海音楽学院での交流会でファドのピアノ伴奏をした中島梓氏(左)に「素晴らしかったですよ」と江明惇院長——一九九九年十一月二十六日

小暮貴代秘書の諸氏)訪中。「中国建国五十周年書法大展」北京で開幕、開幕式参加日本代表団(田中凍雲団長、丸谷巨秘書長、船本芳雲、椎名幸雄、中野暁の諸氏)訪中。慶祝中国国慶五十周年・日中文化交流協会代表団(團伊玖磨団長、團和子、黒井千次、坂野上明、熊井啓、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中、北京で建国五十周年祝賀行事に出席。

◎10月 日本文化界団訪中(江崎誠致団長、那珂太郎、浅野利昭、前野昭吉、伊藤礼、村上昭春、村上紀子、齋藤宜郎、山田史生、入村泰山、大門武二、小阪裕二らの諸氏)訪中。日本美術家友好訪中団(松尾敏男団長、松尾愛、那波多目功一、那波多目竹子、齋藤満栄、松本高明、豊田美枝子、稲員頼子、酒井勝彦、加藤宏、袴田規督計、小暮貴代の諸氏)訪中。黄山訪問友好訪中団(佐藤博史団長、石寄信憲、有馬純達、有馬美智子、西澤和夫、小野信太郎、川村莞爾、鈴木伊穂子、森本慎吾、原信之秘書の諸氏)訪中。

◎11月 三枝佐枝子氏訪中、当協会が協力。「第一回上海国際芸術祭」開幕、内山鶴常任理事が出席。日本「宝塚歌劇鑑賞」訪中(直江勝司顧問、笹沼惟佑団長、笹沼治子、中野暁秘書長、西潟美溪、後藤治子、内田浩美、箕輪幸男、箕輪那海子の諸氏)訪中。「第四回国際刻字芸術展」ソウルで開幕、開幕式出席日本代表団(渡辺寒鷗顧問、高際翠邦団長、松原秀圭副団長、齋藤瑞仙秘書長、中野暁参事の諸氏)訪韓。日本青年文化交流訪中団(中島梓団長、

高橋有美副団長、小暮貴代秘書長)一行二十三名訪中。日本演劇家訪中団(栗原小巻団長、森秀男、津田京子、矢野和朗、原信之の諸氏)訪中。中国人民対外友好協会代表団(呉瑞鈞秘書長、裴煥祿、劉子敬、梁林冲の諸氏)来日。中国作家代表団(李子雲団長、周梅森、王旭烽、李鳴生、李錦琦の諸氏)来日。◎12月 中国出版代表団(于永湛団長、薛宝書、宋一夫、王棟石、王岩鑽、鄭全来の諸氏)来日。当協会など日中友好七団体の主催で李瑞環政協主席歓迎レセプション。マカオが中国に復帰政權移行式典に團会長が招かれて出席。



鑑真和尚の霊に捧げる唐招提寺の障壁画制作に、東山魁夷画伯は中国取材が不可欠と考えた。七六年、協会の協力で取材はついに実現する。以来、氏は現代日本画家として初めて中国で個展を開催するなど美術を軸に、文化交流と友好の発展に、協会の代表理事として長らく活躍された。この年、奇しくも鑑真示寂の日という五月六日、氏は静かに逝かれた。ところで、廖承志中日友協会長や対外友協の王炳南、章文晋両会長、当協会の千田是也代表理事として東山氏は、青年時代のほぼ同じ時期にドイツ留学という貴重な体験を共有していた。天上では、いちばん遅れて来た仲間を迎えて賑やかにドイツ語が飛び交う中で、氏もまた興に乗った時の定番、ドイツ語の「野ばら」を披露しているかもしれない。(九十九)